

資産運用状況  
**Quarterly Report**

東京金属事業企業年金基金

## 平成29年度第2四半期運用状況

平成29年度第2四半期は、7月から9月上旬にかけては、北朝鮮による弾道ミサイルの発射や核実験の強行など、地政学リスクへの警戒感の高まりから内外株式市場は軟調に推移しました。その後、9月中旬から下旬にかけては、米長期金利の上昇により円安・ドル高が進んだことから国内株式市場は上昇しました。また、米国株式も堅調な経済指標やトランプ政権の税制改革案による減税期待を背景に過去最高値を更新するなど上昇基調で推移しました。このような市場環境において、運用開始（7月24日）から9月末までの運用実績はプラス2.23%となりました。

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期 (7/24~)	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率 (%)	—	2.23			2.23
収益額 (千円)	—	2,985			2,985
運用資産額 (千円)	—	286,787			286,787

(注) 収益率は収益総合利回り

# 1. 平成29年度 第2四半期運用環境

## 【各市場の動き（7月～9月）】

- 国内債券：** 7月の10年国債利回りはほぼ横ばいで推移しましたが、8月中旬以降は、米政権運営への思惑や地政学リスクが意識され下落（債券価格は上昇）基調が継続しました。その後、9月下旬には、安倍首相が基礎的財政収支の黒字化達成時期の先送りを事実上表明し、日本国債の格下げの可能性が一部で報道されたことを受け、債券の売りにつながり利回りが上昇（債券価格は下落）しました。
- 国内株式：** 7月は北朝鮮が弾道ミサイルを発射したことを背景に上値が重い展開で始まり、その後、好調な米雇用統計の結果などから円安が進行したことにより上昇に転じましたが、8月から9月半ばまでは地政学リスクに対する警戒感から一進一退の値動きが続きました。その後は、米長期金利の上昇により円安が進行したことから国内株式は年初来高値を更新するなど、上昇基調で推移しました。
- 外国債券：** 米国10年国債利回りは、7月はほぼ横ばいで推移し、8月から9月中旬にかけては、北朝鮮を巡る地政学リスクに対する警戒感から低下基調で推移しました。9月はほぼ横ばいで推移しました。為替は、期末にかけては円安基調となりプラス寄与となりました。
- 外国株式：** 米国株式は、7月は、業績拡大への期待を背景に上昇基調で推移しました。8月は、米朝関係の緊迫化などにより下落する局面もありましたが、堅調な経済指標を手がかりに上昇し、9月も北朝鮮に対する警戒感が和らいだことに加え、長期金利の上昇を受けた業績拡大への観測や、トランプ政権の税制改革案による減税期待などを背景として過去最高値を更新するなど上昇基調で推移しました。為替は、期末にかけて円安基調で推移しプラス寄与となりました。

### ◇参考指標

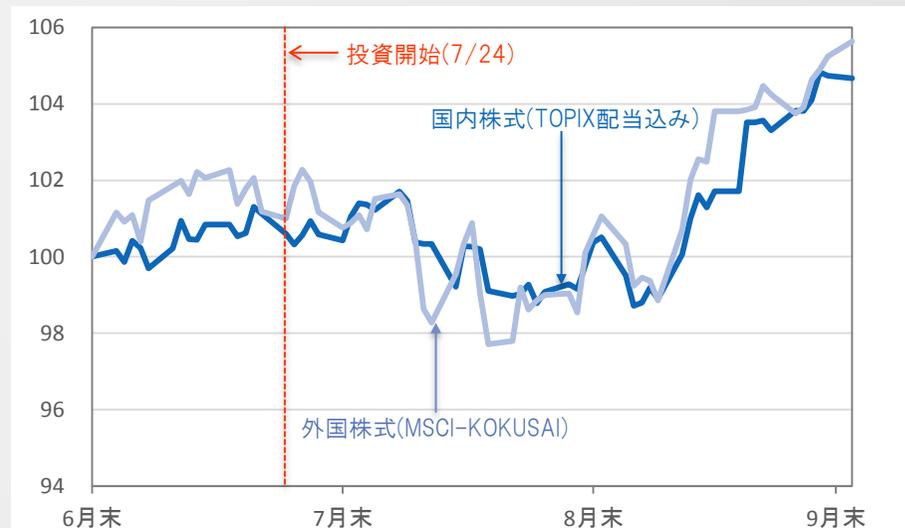
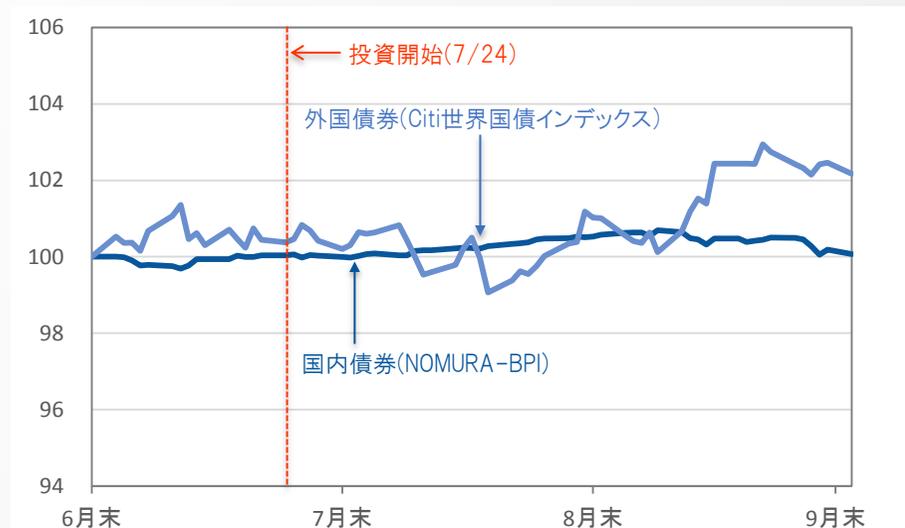
		H29年3月末	H29年6月末	H29年7月末	H29年8月末	H29年9月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.07	0.08	0.08	0.01	0.06
国内株式	TOPIX配当込み (ポイント)	2,176.87	2,324.06	2,333.91	2,332.80	2,434.16
	日経平均株価 (円)	18,909.26	20,033.43	19,925.18	19,646.24	20,356.28
外国債券	米国10年国債利回り (%)	2.39	2.31	2.30	2.12	2.33
	ドイツ10年国債利回り (%)	0.33	0.47	0.54	0.36	0.46
外国株式	NYダウ (ドル)	20,663.22	21,349.63	21,891.12	21,948.10	22,405.09
	ドイツDAX (ポイント)	12,312.87	12,325.12	12,118.25	12,055.84	12,828.86
	上海総合指数 (ポイント)	3,222.51	3,192.43	3,273.03	3,360.81	3,348.94
為替	ドル/円 (円)	111.43	112.36	110.50	110.06	112.57
	ユーロ/円 (円)	119.18	128.16	130.27	130.85	133.07

### ◇ベンチマーク収益率

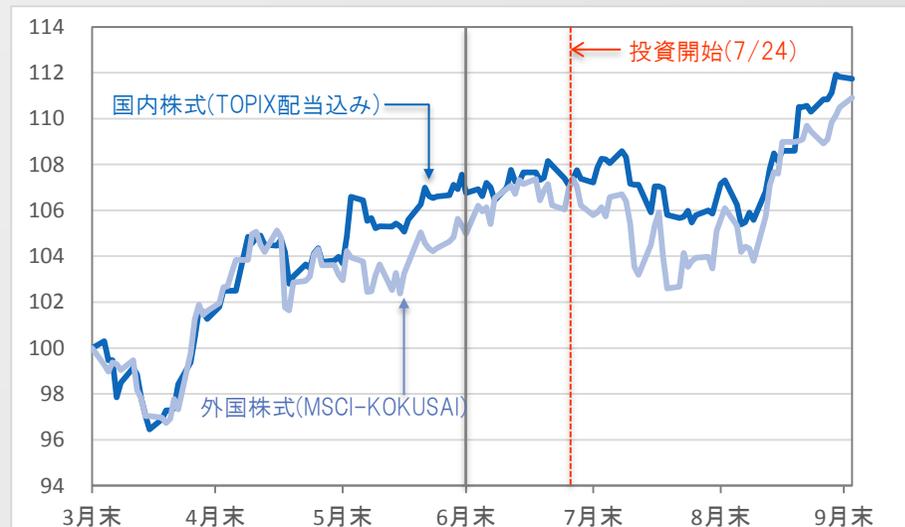
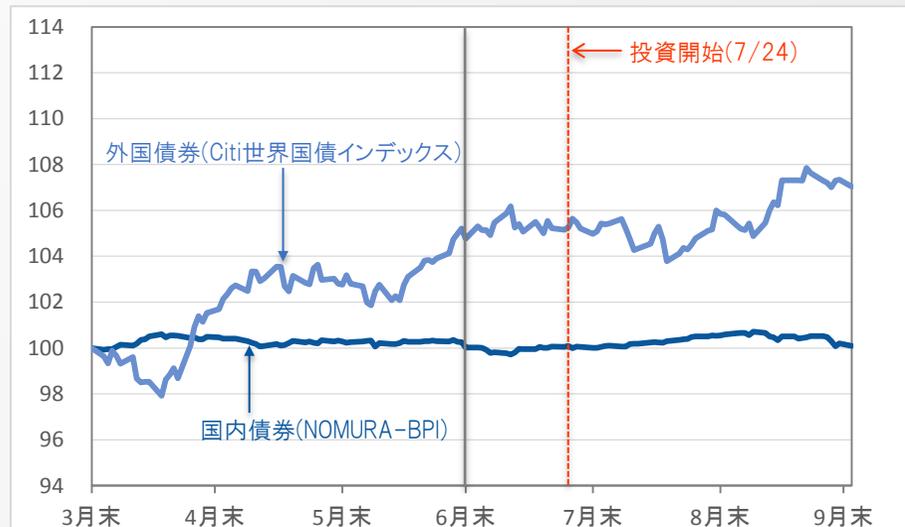
	平成29年7月～9月
国内債券 NOMURA-BPI	0.15%
国内株式 TOPIX配当込み	4.11%
外国債券 Citi世界国債インデックス	2.08%
外国株式 MSCI-KOKUSAI	4.20%

(注) ベンチマーク収益率は7月24日から9月30日までの収益率で、期中のキャッシュフローを考慮しない収益率

市場インデックスの推移(平成29年度 第2四半期) 6月末=100とした市場の動き



市場インデックスの推移(平成29年度 通期) 3月末=100とした市場の動き



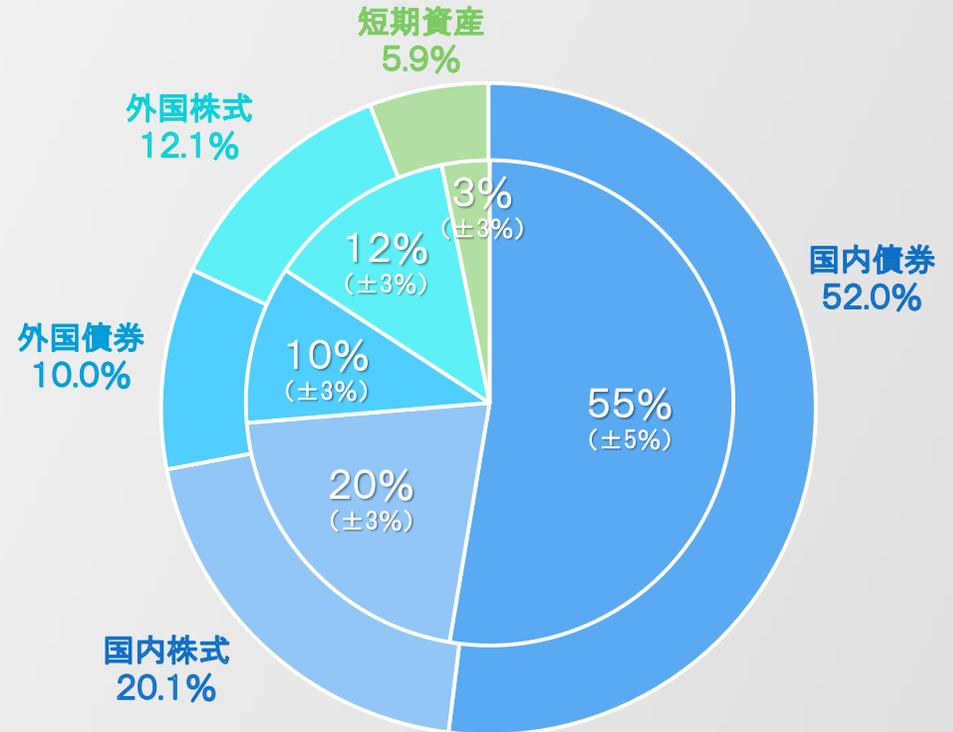
## 2. 資産クラス別収益率・収益額の状況

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率 (%)	—	2.23			2.23
国内債券	—	-0.08			-0.08
国内株式	—	7.32			7.32
外国債券	—	3.71			3.71
外国株式	—	7.83			7.83
短期資産	—	-0.01			-0.01

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額 (千円)	—	2,985			2,985
国内債券	—	-45			-45
国内株式	—	1,597			1,597
外国債券	—	405			405
外国株式	—	1,030			1,030
短期資産	—	-1			-1

### 3. 運用資産額・構成割合

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ	乖離
国内債券	(104,233) 126,442	52.0%	55%(±5%)	-3.0%
国内債券	(84,554) 106,773	43.9%	44%	—
ヘッジ外債	(19,680) 19,669	8.1%	11%	—
国内株式	(38,952) 48,782	20.1%	20%(±3%)	+0.1%
外国債券	(19,244) 24,233	10.0%	10%(±3%)	±0%
外国株式	(23,358) 29,320	12.1%	12%(±3%)	+0.1%
短期資産	(101,000) 14,364	5.9%	3%(±3%)	+2.9%
合計	(286,787) 243,141	100.0%	100.0%	—



内側：基本ポートフォリオ(カッコ内は乖離許容幅)  
外側：平成29年10月3日時点

(注1)上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2)資産額は、10月3日時点の時価残高で、上段( )内は9月末時点。

9月末時点では短期資産等について基本ポートフォリオから乖離していますが、10月2日付の年金給付及び追加投資の実施で乖離は解消しています。